

1 出典：小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』

問一 機械学習型の AI と汎用型人工知能についてそれぞれ説明している部分を探します。機械型学習の AI については、5 行目から 11 行目の段落に説明があります。汎用型人工知能については 12 行目から 19 行目の段落に説明があります。ふたつの違いは本文中で「」を付して強調されているように、活用の対象となる事物についてヒトが「正解を知っている」ことかどうかということです。前者では正解を知っており、後者では正解を知りません。それに伴い、前者はあくまで人間の判断の補助を、後者では判断自体を行うこととなります。以上の違いをまとめます。「違いは何だと述べられていますか」という問いなので、文末は「違い。」とします。

問二 死んでしまう人間に対する死なない AI の特徴は、57 行目から述べられています。57 行目「死なない AI は、私たち人間と違って世代を超えて、進歩していきます。」とあり、AI が死なないことが引き起こす問題の根本は、人間は一世代が終わるとリセットされてしまう一方で、AI は長い年月にわたって進歩しつづけてしまうことだとわかります。そして AI が死なずに進歩し続けることによって生じる問題は、63 行目にある「私たちが理解できない存在になっていく可能性」があることと、69 行目にある「人間が従属的な関係になってしまう可能性」があることです。したがって、以上のことが AI が死なないことを筆者が問題だと考えている理由となります。「なぜですか。」という問いなので、文末は「から。」とします。

問三 エは「孫の世代」の説明が 51 行目から 53 行目の記述と合致しており、45 行目から 49 行目の「生みの親」世代とは異なることが述べられているので、危険性をより強く感じる「生みの親」世代と信頼感をより強く感じる孫の世代の説明がされているため正解です。アは、子どもの世代が孫の世代に危険性を「伝えていく」という内容は本文にないので誤りです。イは前半部分は正しいが、「生みの親」世代が危険性を感じにくくなっているという内容が本文にないので誤りです。ウは孫の世代が「まるで親を信頼するように」コンピュータを信頼しているという内容が本文にはないので誤りです。

問四 AI の寿命がないことの特徴として 37 行目に「無限」という言葉があります。それに対して人間は寿命が限られていることが 74 行目から 79 行目に書かれています。したがって、「無限」の対義語である「有限」が正解です。

問五 AI が「人の存在を守るため」に「自分で自分を殺す（破壊する）」というのは、人

間のためにA Iが自分の能力を制限することを指しています。そこで、なぜ「人の存在を守る」必要が生じるのかを考えると、91行目から95行目にあるようにA Iが出した合理的な答えに、人間が何も考えずに服従してしまうかもしれないからです。続く96行目では、「人らしく試行錯誤を繰り返す」ことが述べられています。したがって、優れたA Iに頼るばかりに「考える」という人らしい生き方ができなくなることが、「人の存在を守る」必要が生じた理由であると考えられます。このような生き方にならないように、A Iが自分の能力を制限するということになります。「どういうことですか。」という問いなので、文末は「こと。」とします。

問六 接続詞などを選択する問題です。Aはウ、Bはア、Cはエ、Dはイです。

問七 漢字は楷書で丁寧に書く必要があります。

問八 イは24行目から30行目の内容と合致するため正解です。アは「主体の逆転」の説明が誤りです。ウは孫の世代と「生みの親」世代の説明が誤りです。エは「自らの意思よりもその宗教の考え方に左右される」という部分が誤りです。

2 出典：水野瑠見『十四歳日和』

問一 1行目から10行目の箇所、葉子は絵を描くことが好きだが、一緒にいる朱里たちとはそれができずにいる状況がわかります。さらに53行目からの会話文で、葉子が「怖くなった」という代わりにしおりに美術部に入ることを迷わなかったか尋ねる中で、美術部の雰囲気独特で、運動部に入る人の方が多い、つまりあまり人気の部活でないことを気にしていることがわかります。以上をふまえて、友人とは違うものが好きだがそれを口に出すことができないことが示されているエが正解です。他の選択肢では、アは「しおりと同じ趣味を持っていることをしおりはよく思わず」の部分本文から読み取れず、イは「とうてい追いつけないと実感せざるを得なくなる」、ウは「『日向』に飛び込んだ自分が入るのはあまりにも場違いだから」が誤りです。

問二 53行目からの部分で、しおりはあまり人気のない美術部への入部を迷っていたが、結果として絵を描くことが好きだという気持ちを貫いたとわかります。64行目にあるように、しおりは怖くてためらっても好きなもののためならば自分の意志を貫いて行動できると読み取れます。一方で、疎遠になってそのままである葉子との関係性の現状を考えると、しおりは葉子に歩み寄る意志はなかったと見て取れます。そこから、しおりが歩み寄ってくれることはもうないのかもしれないと葉子を感じて傍線部「戻れない」という思いに至って

います。「初めて」と書かれていることから、会話の中で初めて判明したしおりの美術部入部の経緯から読み取れる内容を踏まえて解答を作成します。理由を答える問題なので文末は「から。」とします。

問三 植物に関する語を使った成句の問題です。一はウ、二はア、三はエ、四はオ、五是イです。

問四 82行目からの場面で、葉子は朱里の前でしおりの名前を呼びます。その前の場面で葉子は疎遠になっていたしおりともう一度仲良くなりたいと思い、別の友人である朱里にその意思表示をするための行動でした。86行目にあるように、朱里の「あからさまに向けられた困惑と非難のまなざしがぴりぴりと肌に突き刺さって、息が止まりそうだった」とあることから朱里から非難を受けることが想定されます。そして続く部分に「怖くない、なんて言ったら、百パーセント、嘘になる。」と書かれていることから、朱里が自分を非難することを想定しつつもそれをおそれていることがわかります。また94行目に「祈るように待つ。」とあります。これは、しおりに対して呼びかけた応答がしおりから返ってくるかどうか不安な気持ちであるとわかります。以上を踏まえて解答を作成します。文末は「気持ち。」とします。

問五 葉子がしおりを呼び捨てにすると、朱里は葉子に困惑と非難のまなざしを向けます。行動を共にする友人のグループの境界線を越えた行動であったため、朱里は葉子にその真意を問いただします。葉子がしおりを「友達」と表現すると、葉子がこれまでしおりと話すところを見なかったと指摘し、葉子がしおりと「友達」であることを認めません。132行目に「瀬川さんっていかにもマイペースって感じだし、うちらと全然ジャンルちがうじゃん。」とあることから、しおりを自分や葉子とは合わないと考えていることがわかります。以上のことから、葉子としおりが「友達」として親しくすることに納得がいかない心情と、しおりと、葉子や自分は合わないと考えていることを踏まえて記述します。理由を答える問題ですので、文末は「から。」とします。

問六 しおりと再び友達になろうと決意するものの、今一緒に行動している朱里にそれが受け入れられず、仲たがいしてしまうことをおそれている心情を説明しているアが正解です。イは「後悔する」、ウは「朱里に悟らせまいと焦る」、エは「喪失感」がそれぞれ誤りです。

問七 修飾する語を選択する問題です。Aがウ、Bがア、Cがイ、Dがエです。

問八 本文に合致しているものを選ぶ問題です。アはしおりの行動として書かれているの

が誤りです。イは「朱里とは気が合わず好きになれないため少しずつ距離を置きたいと思っ  
ており」が誤りです。エは「しおりに対して劣等感を抱いており」、「葉子の素直さをうらや  
ましく思っている」が誤りです。